

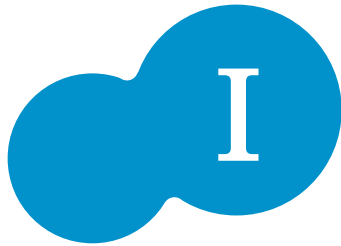
2022年3月期 決算説明資料

証券コード: 6230
(東京証券取引所 スタンダード市場)

SANEI 株式会社

2022年5月17日

SANEI



2022年3月期 決算

前期

当期1Q

当期2Q

当期3Q

当期4Q

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

3

コロナ第1波

コロナ第2波

コロナ第3波

コロナ第4波

コロナ第5波

コロナ第6波

4月～5月 緊急事態宣言の発令
1月～3月 緊急事態宣言の発令

4月～6月 緊急事態宣言の発令

7月～9月 緊急事態宣言の発令

- ◆急激な円安進行
- ◆ウクライナ情勢の悪化
多方面で物価上昇

- ◆在宅勤務者の増加

- ◆木材価格の高騰(ウッドショック)
- ◆世界的な半導体不足

- ◆大雨等の天候不順
- ◆原油価格の高騰

- ◆住宅展示場、ショールーム閉鎖
- ◆巣ごもり消費(DIY需要増)

- ◆新設住宅着工戸数は回復基調が続いている

※当期10月以降はコロナ前の水準に回復

- ◆学校・公共施設での水栓のレバー交換需要増

- ◆巣ごもり消費が一巡した

- ◆非接触型水栓への注目高まる

- ◆銅価格を始め、金属価格は引き続き高騰

※価格転嫁が加速

- ◆銅相場が上昇基調となる
- ◆寒波(凍結)により配管部材の需要増

- ◆給湯器、トイレなど住設機器の品薄による納期遅延

経済・業界の概況

- ◆新設住宅着工戸数は回復基調が続く
- ◆コロナ感染拡大、ウッドショック、半導体不足など住宅設備機器の供給が不安定な状況が続く
- ◆金属価格、原油価格等の上昇、急激な円安進行、ウクライナ情勢等の影響により、供給不足や物価上昇など不透明な状況が続く

売上

- ◆非接触型水栓の需要は堅調に続き、高機能商材などの新製品が好調
- ◆巣ごもり需要は落ち着いたが、E C市場の拡大
ウルトラファインバブル製品などが好調
- ◆住宅着工戸数の回復により現場需要が増加
住宅設備機器メーカーの受注も増加

利益

- ◆素材価格が高騰しており、材料費・仕入価格の上昇が利益を圧迫
※下期より一部製品で価格転嫁を実施
- ◆高付加価値製品の販売好調により利益増
- ◆新規持分法適用会社による投資利益
- ◆生産性向上による原価低減

損益の概要

(単位：百万円)
(計画値との比較)

	2021年3月期		2022年3月期			計画値	計画増減 (計画比)
	実績	構成比	実績	構成比	前年増減 (前年比)		
売上高	22,182	100.0%	22,999	100.0%	+817 (+3.7%)	23,200	△200 (△0.9%)
売上総利益	7,147	32.2%	7,038	30.6%	△109 (△1.5%)		
営業利益	1,612	7.3%	1,477	6.4%	△134 (△8.4%)	1,650	△172 (△10.5%)
経常利益	1,593	7.2%	1,492	6.5%	△100 (△6.3%)	1,630	△137 (△8.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,000	4.5%	999	4.3%	△1 (△0.1%)	1,100	△100 (△9.1%)

ROE (自己資本当期純利益率)	10.3%	9.2%
EPS (1株当たり当期純利益)	489円93銭	436円62銭
期中平均株式数	2,041,906株	2,289,000株

需要回復と高機能商材により売上は堅調、素材価格高騰の影響を受け増収減益

3

四半期業績の推移

(単位：百万円)

四半期単位	1Q		2Q		3Q		4Q	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
売上高	5,587	10.2%	5,471	3.4%	5,990	5.4%	5,950	△3.1%
(通期に対する構成比)	24.3%		23.8%		26.0%		25.9%	
営業利益	354	36.5%	338	△13.3%	442	3.2%	342	△35.9%
経常利益	333	23.6%	371	△3.9%	447	9.3%	340	△35.4%
四半期純利益	211	16.2%	253	△8.2%	297	50.7%	237	△31.2%
(通期に対する構成比)	21.1%		25.3%		29.8%		23.8%	

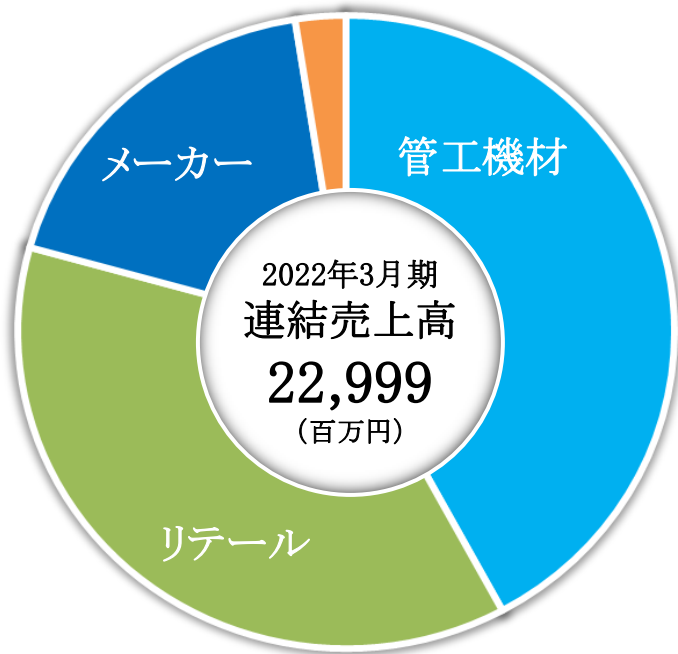
累計	1Q累計		2Q累計		3Q累計		4Q累計	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
売上高	5,587	10.2%	11,058	6.7%	17,049	6.3%	22,999	3.7%
(年間進捗率)	24.3%		48.1%		74.1%		100.0%	
営業利益	354	36.5%	692	6.6%	1,135	5.2%	1,477	△8.4%
経常利益	333	23.6%	705	7.4%	1,152	8.1%	1,492	△6.3%
四半期純利益	211	16.2%	464	1.5%	761	16.3%	999	△0.1%
(年間進捗率)	21.1%		46.4%		76.2%		100.0%	

- 1 Q 前期にコロナ禍による社会・経済活動の大幅な制限・自粛があり、当期は大幅な増収増益。
- 2 Q 住宅需要の回復等により売上は前年を上回るものの、材料価格の高騰の影響を受けはじめ、四半期単位では増収減益となったが、累計では増収増益を維持。
- 3 Q 住宅需要の回復に加え、高機能製品の販売も好調。材料価格の高騰が進むものの、四半期・累計ともに増収増益。
- 4 Q 前期は寒波による特需があり、前年対比で売上は下回った。材料価格の高騰が更に進み、四半期単位では減収減益。累計では増収減益。

4

販売ルート別の業績

- 管工機材**：新設住宅着工戸数の増加による、現場物件を中心とした市場の回復。非接触型水栓、高機能商材などの提案・販売が好調。
- リテール**：前期にあった「巣ごもり消費」は落ち着いたが、コロナ禍を契機としてE C市場の拡大が続く。ウルトラファインバブル製品や高機能シャワーなどの新製品の販売が好調。
- メーカー**：新設住宅着工戸数の増加に伴い、住宅設備メーカーからの受注が回復。新規採用製品の決定。



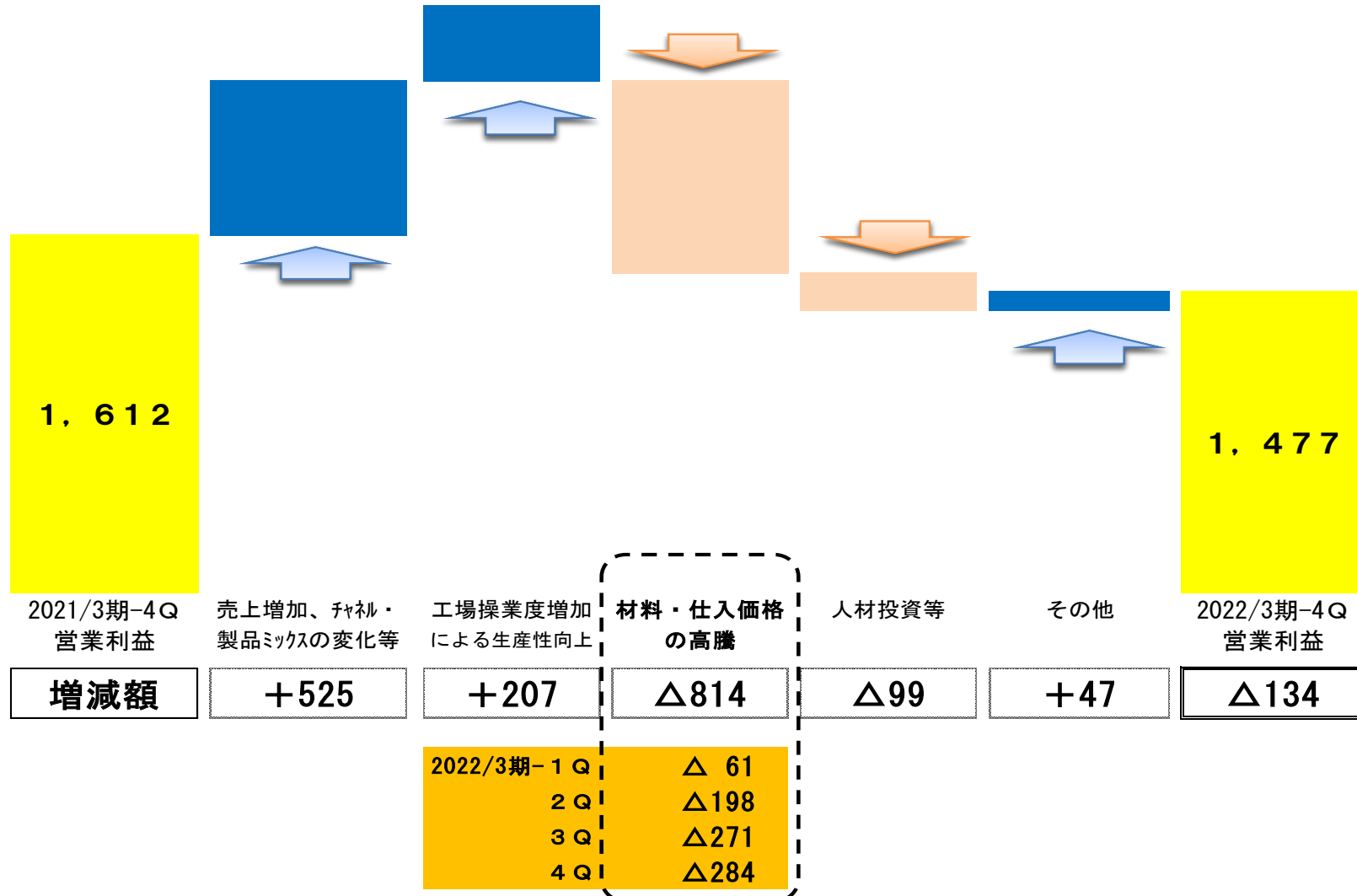
		2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期
■ 管工機材 ルート	前年比	↑	↑	↑
	構成比	↓	↑	↓
■ リテール ルート	前年比	↑	↑	↑
	構成比	→	↑	→
■ メーカー ルート	前年比	↑	↓	↑
	構成比	↑	↓	↑

5

営業利益の増減要因

営業利益の増減要因(前年差異△134百万円の内訳)

(単位:百万円)



6

損益の概要(まとめ)

(単位：百万円)

	2021年3月期	
	実績	構成比
売上高	22,182	100.0%
売上総利益	7,147	32.2%
営業利益	1,612	7.3%
経常利益	1,593	7.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,000	4.5%

- ・非接触型水栓、高機能商材など、高付加価値製品の拡販
- ・新設住宅着工戸数の回復による受注増加
- ・EC市場の拡大

- ・チャネル・製品ミックスの変化
- ・素材価格(銅相場)高騰による材料費増加
※一部製品にて価格転嫁を実施
- ・操業度増加による生産性向上

営業外収益・費用

- ・持分法による投資利益
※2021年7月に株式会社水生活製作所の株式を30%取得
- ・為替差損を計上

特別利益・損失

- ・前期は有価証券売却益を計上

法人税等調整額

- ・前期に外形標準課税適用法人となり、法人税等調整額89百万円を計上

2022年3月期			
実績	構成比	増減	前年比
22,999	100.0%	+817	+3.7%
7,038	30.6%	△109	△1.5%
1,477	6.4%	△134	△8.4%
1,492	6.5%	△100	△6.3%
999	4.3%	△1	△0.1%

7

連結BS(資産・負債・純資産)

総資産の増加額、30億8百万円のうち、新規連結会社の追加によるものは22億88百万円

(単位：百万円)

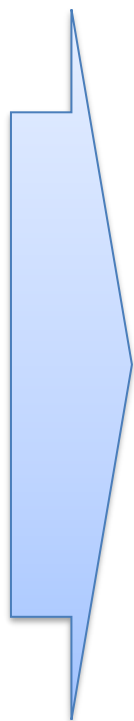
	2021年 3月期	2022年 3月期			
	金額	金額	増減	前年比	増減要因
資産	19,459	22,467	+3,008	+15.5%	資産の増加は主に棚卸資産及び新規連結会社の増加によるもの ■現金及預金 + 635 (442) ■棚卸資産 + 1,281 (539) ■有形固定資産 + 635 (775) ※ () 内は新規連結会社分
負債	8,959	10,515	+1,556	+17.4%	新規連結会社の増加により負債が増加。 ■流動負債 + 1,122 (1,157) ■固定負債 + 434 (481) ※ () 内は新規連結会社分
純資産	10,500	11,952	+1,452	+13.8%	自己資本比率は50.3%に減少 ■配当の支払額 △206 ■純利益 +999 ■非支配株主持分 +644

8

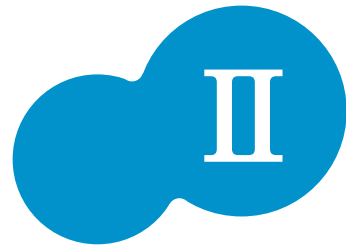
連結キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2021年 3月期	2022年3月期		
	金額	金額	増減	増減要因
期首残高	895	1,717	+822	
営業C F	991	897	△94	・税前当期純利益が前期より1.4億円減少 ・売上債権の減少・仕入債務の増加 ・棚卸資産の増加、消費税・法人税の支払額の増加
投資C F	△570	△395	+175	・設備投資が若干減少 ・新規連結会社の株式取得。
財務C F	390	△311	△702	・前期、上場による資金増加。(6.7億円) ・借入金の返済、配当額の増加。
その他	10	3	△6	
新規連結に伴う 現金等の増加		275	+275	
期末残高	1,717	2,186	+469	



SANEI



2023年3月期 計画

1 Think Life. Make Act. (2023年3月期の取り組み)

いつまでも人々の生活の憩いと潤いが続くように。
SANEIは人と水の関わりのあるべき姿を考え、未来のために一歩ずつ行動していきます。

社会の動向

- ロシアのウクライナ侵攻など世界情勢は不安定
- エネルギーや素材の価格上昇や供給不足の懸念
- 新型コロナウイルス感染防止対策は徐々に緩和
- CO2削減、環境配慮、多様性の社会への対応

市場や消費の動向

- 住宅着工の回復
- 大規模な開発プロジェクト、大阪万博、I R 事業、インバウンド需要の再開に期待
- コロナによるテレワークの普及や衛生意識の高まりによる住環境の変化
- DIY需要の拡大
- 多様な価値観、生活スタイル

SANEIの取り組み

①ブランド戦略

- ・デザインや質感を追求したブランド水栓や電子技術製品、高機能シャワーなどの高機能・高付加価値製品により、快適で安全・安心な暮らしを提案

②水域戦略

- ・空間提案やセット販売の拡充
- ・セットでの製品供給と品質保証を実現

③海外戦略の基盤づくり

- ・アジア市場の拡大、米国・ベトナム市場の開拓

④材料・仕入価格高騰の対策

- ・価格改定による利益低減の抑制

⑤生産体制の強化

- ・工場への設備投資による生産効率向上、環境負荷低減
- ・グループ会社の連携による生産体制の見直し

⑥ブランド価値の向上、SDGsの推進

- ・ブランド価値向上、知名度アップのため広報販促活動を強化
- ・誰もが働きやすい環境整備や多様化する人材の活用
- ・環境や地域に配慮した企業活動の推進

2023年3月期の連結業績予想

(単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期予想						
	通期		上期		下期		通期		
	実績	構成比	計画	前年増減 (前年比)	計画	前年増減 (前年比)	計画	構成比	前年増減 (前年比)
売上高	22,999	100.0%	12,630	+1,571 (+14.2%)	13,370	+1,429 (+12.0%)	26,000	100.0%	+3,000 (+13.0%)
営業利益	1,477	6.4%	550	△142 (△20.6%)	1,120	+335 (+42.7%)	1,670	6.4%	+192 (+13.1%)
経常利益	1,492	6.5%	540	△165 (△23.4%)	1,100	+312 (+39.6%)	1,640	6.3%	+147 (+9.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	999	4.3%	330	△134 (△28.9%)	720	+184 (+34.5%)	1,050	4.0%	+50 (+5.1%)

主な
取り組み

売 上

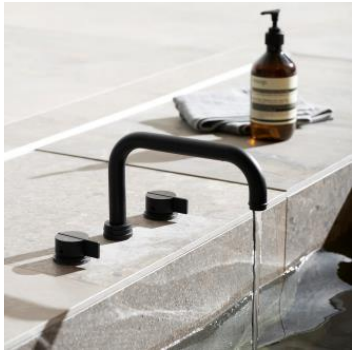
- ・ブランド戦略・水域戦略・海外戦略による売上増加
- ・非接触、ウルトラファインバブル・配管システムの販売強化
- ・新規連結子会社による増加

利益等

- ・価格改定による利益の回復 ※材料費高騰への対応
- ・生産規模拡大、自動化による生産効率向上、環境負荷低減のため設備投資
- ・ブランド価値向上・消費者の認知度アップのため上期に広告販促活動を強化

3 Think Life. Make Act. (商品のご紹介)

ブランド戦略製品



ブランド水栓



センサー水栓



ワイヤレススイッチ



音声認識式水栓



ウルトラファインバブルシャワー

水域戦略製品



SOROE

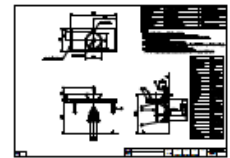


KOKOE



ANY PLUS

洗面組合わせ



セット図



見積り書



アクアワークス
セット図・見積りダウンロードサービス

3

Think Life. Make Act. (商品のご紹介)

環境配慮製品



いちりん
icirin

育成が早いことで知られる「竹」を資源ととらえ、ものづくりに生かした洗面、手洗い用の水栓です。本体部品にメッキをしていないため、環境負荷が低く、リサイクルし易い設計です。



自動水栓(発電仕様)

吐水すると、発電ユニット内のタービンが回転し、電気エネルギーが発生します。発生した電気エネルギーはユニット内に蓄電され、センサー水栓の作動のためのエネルギーとなります。



雨水利用システム



雨水を有効利用することで水道施設にかかわるエネルギーを軽減し、二酸化炭素の排出量削減につなげます。貯めた雨水は、ガーデニングや洗車、災害時の生活用水として利用できます。



4 配当計画

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)
	中間 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭		
2017年3月期	5.00	10.00	15.00		4.7%
2018年3月期	10.00	15.00	25.00		9.5%
2019年3月期	15.00	15.00	30.00		11.2%
2020年3月期	15.00	30.00	45.00	88百万円	14.0%
2021年3月期	30.00	45.00	75.00	161百万円	15.3%
2022年3月期	45.00	47.00	92.00	210百万円	21.1%
2023年3月期 (予想)	48.00	48.00	96.00	219百万円	20.9%

- ◆ 2020年1月2日付で株式1株につき10株の株式分割を行っております。当資料では2016年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。
- ◆ 2021年3月期 期末配当金の内訳は、普通配当 30円00銭・東証二部市場上場記念配当15円00銭となっております。
- ◆ 2022年3月期 期末配当金の内訳は、普通配当 45円00銭・株式上場1周年の記念配当2円00銭となっております。

株主の皆様へは、将来にわたり安定的な配当を実施することを基本方針としております。
2023年3月期は、通期の業績予想を勘案し、年間96円の配当を予想しています。

「ALWAYS WITH JOY」

SANEI

SANEI 株式会社

<https://www.sanei.ltd/>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。